



TITLE:

# ファクターの内部自己同型写像の 接合積への拡張 (作用素環の研究と その応用)

AUTHOR(S):

長田, まりゑ

---

CITATION:

長田, まりゑ. ファクターの内部自己同型写像の接合積への拡張 (作用素環の研究とその応用). 数理解析研究所講究録 1977, 314: 1-12

ISSUE DATE:

1977-12

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/103941>

RIGHT:

# ファクターの内部自己同型写像の接合積への拡張

大阪教育大 長田 まりゑ

$A$  は von Neumann algebra,  $G$  は discrete countable group,  $\alpha$  は  $G$  から  $A$  の automorphism group への表現とし,  $A$  の  $G$  による  $\alpha$  に関する接合積  $R(G, A, \alpha)$  を  $M$  で表わすことにする。 $A$  の automorphism の拡張と見做す  $M$  の automorphism 全体のなす群を  $\text{Aut}(M, A)$  で,  $A$  の automorphism の拡張と見做す  $M$  の inner automorphism 全体のなす群を  $\text{Int}(M, A)$  で表わす。 $\text{Aut}(M, A)$  の研究は, 主として, Singer による, group measure space construction による finite factor  $M$  に対してなされた ([13])。  $G$  は  $A$  の freely acting automorphism のなす群としたとき,  $\text{Int}(M, A)$  の要素の構造に関する, いくつかの結果は [2], [3], [9], [11] で得られ, [1] に於て,  $\text{Aut}(M, A)$  の Singer の結果の拡張がこころみられている。又  $\text{Aut}(M, A)$  の要素と  $G$  の 2-cycle との関係が, von Neumann algebra の群による接合積の一般化を考へることにより, [7], [12], [4]

[15] 等を得られている。

ここでは、 $\mathcal{A}$  は  $\mathcal{M}$  の  $\mathcal{A}$  と仮定し、 $\text{Int}(\mathcal{M}, \mathcal{A})$  及び  $\mathcal{A}$  上では inner automorphism であるような  $\mathcal{M}$  の automorphism 全体のなす群を、群  $G$  との関連のもとで、決定付ける問題について記す。

尚、ここでは話を統一する為に、扱う群  $G$  は discrete countable group とするが註で述べるように、結果のあるものは  $G$  が locally compact group のときも成立する ([6])。又、接合積  $R(G, \mathcal{A}, \alpha)$  と共に、接合積  $R(G, \mathcal{A}, \alpha, \psi)$  (一般化された接合積で定義は下記) も取り扱う。

### $\text{Int}(\mathcal{M}, \mathcal{A})$ について

$\mathcal{A}$  を separable Hilbert space  $\mathcal{H}$  の von Neumann algebra とし、 $\text{Aut}(\mathcal{A})$ ,  $\text{Int}(\mathcal{A})$ ,  $\text{Out}(\mathcal{A})$  によって、それぞれ  $\mathcal{A}$  の automorphism, inner automorphism, outer automorphism 全体のなす群を示す。

$G$  は discrete countable group,  $\alpha$  は  $G$  から  $\text{Aut}(\mathcal{A})$  への写像で、次の条件 (1) を充たすものとする；

$$(1) \quad \alpha_g \alpha_h^{-1} \alpha_g \alpha_h \in \text{Int}(\mathcal{A}), \quad g, h \in G.$$

この (1) の inner automorphism を  $i(g, h)$  で記す。  $G$  の単位元  $1$  に対して、 $\alpha_1$  は identity automorphism ではないときには、

$\Delta_g \Delta_h^{-1} \in \Delta_g$  とおくことにより、 $\Delta_1$  は identity automorphism であるとしておくことができる。 $\Delta$  の  $\mathbb{Z}$  値の族  $\{\psi(g, h); g, h \in G\}$  の、次の二つの関係式を満たすとき、 $(G, \Delta)$  に関する factor set とよぶ;

$$\begin{cases} (2) & \lambda(g, h)(x) = \text{Ad } \psi(g, h)(x) = \psi(g, h)x\psi(g, h)^*, \quad x \in \Delta \\ (3) & \psi(g, hk)\psi(h, k) = \psi(gh, k)\Delta_k^{-1}(\psi(g, h)), \quad g, h, k \in G. \end{cases}$$

$\Delta$  の各元  $x$  と、 $G$  の各元  $g$  に対し、

$$\begin{cases} (4) & (\pi_\Delta(x)\xi)(g) = \Delta_g^{-1}(x)\xi(g), \quad \xi \in L^2(\Delta_g, G), \quad g \in G \\ (5) & (\rho_g \xi)(h) = \psi(g, g^{-1}h)\xi(g^{-1}h), \quad \xi \in L^2(\Delta_g, G), \quad h \in G \end{cases}$$

とおくと、 $\pi_\Delta$  は  $\Delta$  の  $L^2(\Delta_g, G)$  上への normal representation となり、 $\rho_g$  は各  $g$  に対し、 $\mathbb{Z}$  値族と成る。又、次の二式

$$\begin{cases} (6) & \rho_g \rho_h = \rho_{gh}(\pi_\Delta(\psi(g, h))), \quad (g, h \in G) \\ (7) & \pi_\Delta(\Delta_g(x)) = \rho_g \pi_\Delta(x) \rho_g^*, \quad (x \in \Delta, g \in G) \end{cases}$$

が成される。 $L^2(\Delta_g, G)$  上の  $\pi_\Delta(\Delta)$  と  $\rho_g$  によって生成された von Neumann algebra を  $R(G, \Delta, \alpha, \psi)$  で示す。もし、 $\Delta$  の表現で、 $G$  の全ての元  $g, h$  に対し、 $\psi(g, h) = \text{恒等作用素}$  と成るときは、 $R(G, \Delta, \alpha, \psi)$  は、通常の接合積  $R(G, \Delta, \alpha)$  に他ならない。

$R(G, \Delta, \alpha, \psi)$  を  $\mathcal{M}$  で表わし、

$$\text{Aut}(\mathcal{M}, \Delta) = \{\beta \in \text{Aut}(\mathcal{M}); \beta(\pi_\Delta(\Delta)) = \pi_\Delta(\Delta)\}$$

$$\text{Int}(\mathcal{M}, \Delta) = \{\beta \in \text{Int}(\mathcal{M}); \beta(\pi_\Delta(\Delta)) = \pi_\Delta(\Delta)\}$$

とおく。

以下,  $\pi_*(\psi(g, h))$  を改めて, 同じ記号  $\psi(g, h)$  で記す. 又  $A$  の inner automorphism 及び  $\alpha_g (g \in G)$  は, そのまゝ自然な形で,  $M$  の automorphism に拡張することができるので, 同じ記号  $\text{Int}(A)$ , 及び  $\alpha_g (g \in G)$  でもって, 拡張された  $M$  の automorphism の群 及び automorphism を表わすことにする;

$$\text{Int}(A) = \{ \text{Ad } u \in \text{Aut}(M); u \in u(\pi_*(A)) \}$$

$$\alpha_g = \text{Ad } P_g|_M \quad g \in G,$$

ただし,  $u(A)$  は von Neumann algebra  $A$  の  $\mathcal{U}$  での群.

$\text{Int}(A)$  及び  $\alpha_g$  は共に  $\text{Int}(M, A)$  の部分集合であるが, それらによつて  $\text{Int}(M, A)$  は完全に決定付けられることができる.

仮定 (\*)  $\left\{ \begin{array}{l} A \text{ は factor, } G \text{ は discrete countable group,} \\ \alpha \text{ は (1) を充つ } G \text{ から } \text{Aut}(A) \text{ への写像;} \end{array} \right.$

仮定 (\*\*)  $\left\{ \begin{array}{l} (*) \text{ と同じ, } A, G, \alpha \text{ に対して, 単位元を除く全ての} \\ g \in G \text{ に対して } \alpha_g \in \text{Out}(A). \end{array} \right.$

$$u(M, A) = \{ u \in u(M); u \pi_*(A) u^* = \pi_*(A) \}$$

とおく.

定理 1. (\*) のもとで,  $u(M, A)$  の各要素  $u$  は,

$$(8) \quad u = w w' f_g, \quad w \in u(\pi_*(A)), w' \in u(\pi_*(A)' \cap M), \\ g \in G$$

とかけらる. (\*\*) のもとでは,

$$(9) \quad u = w f_g, \quad w \in u(\pi_*(A)), g \in G$$

と唯一通りにかける。

(証明) [5, Lemma 1] によると,  $u(M, A)$  の元  $u$  の Fourier 展開を  $u = \sum_{g \in G} u(g) \rho_g$  ( $u(g) \in \pi_\alpha(A)$ ) とする。  $u$  は

$u \pi_\alpha(A) u^* = \pi_\alpha(A)$  を充すから, 全ての  $a \in \pi_\alpha(A)$  に対して,

$$\sum_{g \in G} u(g) \rho_g(a) \rho_g = \sum_{g \in G} u a u^* u(g) \rho_g$$

を充す。従って  $u(g) \rho_g(a) = u a u^* u(g)$  が全ての  $a \in \pi_\alpha(A)$  と

$g \in G$  に対して成立つ。  $\rho_g^{-1} \text{Ad} u$  が  $\pi_\alpha(A)$  の outer automorphism

であれば,  $u(g) = 0$  とならなければならぬ。後述より  $u$  は

ユニタリであるから,  $\rho_g^{-1} \text{Ad} u$  が  $\pi_\alpha(A)$  上で inner とする  $g \in G$

が存在する。  $w \in \rho_g^{-1} \text{Ad} u = \text{Ad} w$  とする  $\pi_\alpha(A)$  のユニタリと

し  $w' = \rho_g^* u w^*$  とおくと, (8) の関係が得られる。特に,

$\rho_g \in \text{Out}(A)$  ( $g \neq 1$ ) ならば, [5, Corollary 3] により,

$\pi_\alpha(A)' \cap M$  は scalar 全体と同型であるから, (8) より,

$u = w \rho_g$  ( $w \in u(\pi_\alpha(A))$ ,  $g \in G$ ) とかける。もし,

$$(10) \quad w_1 \rho_g = w_2 \rho_h, \quad w_1, w_2 \in u(\pi_\alpha(A)), \quad g, h \in G$$

ならば,

$$(11) \quad w_2^* w_1 = \rho_h \rho_g^* = \rho_{hg^{-1}} \psi(h, g^{-1}) \psi(g, g^{-1})$$

が成立つ。他方 [4, Theorem 6] により,  $M$  から  $\pi_\alpha(A)$  の  $\mathcal{E}$  への

faithful normal expectation  $e$  で  $e(\rho_g) = 0$  の単位元を

除く  $G$  の全ての元  $g$  に対して充すものが存在する。従って, もし

(10) が  $g \neq h$  なる  $g, h \in G$  に対して成立つならば, (11)

により  $w_2^* w_1 = 0$  となり矛盾。従って、(9) の分解は、唯一通りである。

系 2 (\*) のもとで、 $M$  の inner automorphism に拡張できる  $A$  の automorphism  $\beta$  は次の形のものに限る。

$$(12) \quad \beta = i_\beta \cdot \alpha_g \quad i_\beta \in \text{Int}(A), \quad g \in G.$$

集合  $u(\pi_\alpha(A)) \times G$  に対して、次の関係 (13) で積を定義すると、この集合は一つの群になる。

$$(13) \quad (w_1, g)(w_2, h) = (w_1 \alpha_g(w_2) \alpha_{gh}(u(g, h)), gh).$$

この群を  $u(\pi_\alpha(A))$  の  $G$  による extension group とし、 $E(G, u(\pi_\alpha(A)), \alpha, u)$  で表わす。

系 3 (\*\*) のもとで、 $u(M, A)$  は  $E(G, u(\pi_\alpha(A)), \alpha, u)$  と同型である。又  $M$  が通常の接合積  $R(G, A, \alpha)$  ならば、 $u(M, A)$  は  $u(A)$  と  $G$  の semi-direct product と同型である。

(証) 定理 1 により、 $u(M, A)$  の元  $u$  は  $u = w f_g$ ,  $g \in G$ ,  $w \in u(\pi_\alpha(A))$  と唯一通りにかけらる。  $E(G, u(\pi_\alpha(A)), \alpha, u)$  から  $u(M, A)$  への写像  $\sigma$  を  $\sigma(w, g) = w f_g$ , ( $w \in u(\pi_\alpha(A))$ ,  $g \in G$ ) で定義すると、 $\sigma$  は  $E(G, u(\pi_\alpha(A)), \alpha, u)$  から  $u(M, A)$  への同型写像となる。

同様にし、集合  $\text{Int}(A) \times G$  に対して次の関係式 (14) の積を定義すると、この集合は群になる；

$$(14) \quad (\text{Ad} u, g)(\text{Ad} w, h) = (\text{Ad}(u \alpha_g(w) \alpha_{gh}(v(g, h))), gh).$$

この群を  $E(G, \text{Int}(A), \alpha, v)$  と書き、 $\text{Int}(A)$  の  $G$  による積

(14) のもとでの extension group と呼ぶ。

系 4  $(**)$  のもとで、 $\text{Int}(M, A)$  は  $E(G, \text{Int}(A), \alpha, v)$  と同型であり、 $M = R(G, A, \alpha)$  ならば、 $\text{Int}(M, A)$  は  $\text{Int}(A)$  と  $G$  との semi-direct product である。

(証明) 定理 1 により、 $\text{Int}(M, A)$  の元  $\beta$  は  $\text{Ad} u \cdot \alpha_g$  とかけ、その分解の仕方は唯一通りである。  $\sigma \in E(G, \text{Int}(A), \alpha, v)$  から  $\text{Int}(M, A)$  への写像で  $\sigma(\text{Ad} u, g) = \text{Ad}(u f_g)$ , ( $u \in u(\pi_\alpha(A))$ ,  $g \in G$ ) なるものがあると、 $\sigma$  は  $E(G, \text{Int}(A), \alpha, v)$  から  $\text{Int}(M, A)$  への同型写像となる。

$A$  の inner automorphism group の拡張全体について

ここでは  $A$  の inner automorphism の  $M$  への拡張全体の作る群の構造について記す。

$$K = \{ \beta \in \text{Aut}(M, A) ; \beta|_{\pi_\alpha(A)} \text{ is inner on } \pi_\alpha(A) \}$$

とおく。  $K$  は  $\text{Int}(M, A)$  と共に、 $\text{Aut}(M, A)$  の normal subgroup であるが、この群  $K$  を  $G$  との関連のもとで決定付ける。



$\chi(G)$  を  $G$  の character 全体の可換群とする。

補題 5  $(**)$  のもとで  $K$  の元  $\beta$  に対し  $(\tau, \text{次の (15) を満たす}$   
 $\chi \in \chi(G)$  と  $u \in u(\pi_\alpha(A))$  が存在する ;

$$(15) \quad \beta(f_g) = \chi(g) u f_g u^*, \quad g \in G.$$

(証明)  $\beta \in K$  より  $\beta(a) = u a u^*$  と全ての  $a \in \pi_\alpha(A)$  に対し  $\tau$  を満たす  $u \in u(\pi_\alpha(A))$  が存在する。各  $g \in G$  に対し  $\tau$ ,

$$\begin{aligned} \beta(f_g) u a u^* \beta(f_g)^* &= \beta(f_g a f_g^*) \\ &= u f_g a f_g^* u \end{aligned}$$

が成立つから、 $f_g^* u^* \beta(f_g) u \in \pi_\alpha(A)' \cap \mathcal{U}$  が成立する。設定の  $\lambda_g \in \text{Out}(A)$  ( $g \neq 1$ ) より、 $\pi_\alpha(A)' \cap \mathcal{U}$  はスカラー全体と同型である。 $\chi(g) I = f_g^* u^* \beta(f_g) u$  とおくと関係式 (15) が成立する。 $G$  の元  $g, h$  に対し  $\tau$ ,

$$\begin{aligned} \chi(gh) I &= f_{gh}^* u^* \beta(f_{gh}) u = f_{gh}^* u^* \beta(f_g f_h \psi(g, h)^*) u \\ &= \chi(g) \chi(h) I, \end{aligned}$$

より  $\chi \in \chi(G)$  を得る //

$\chi(G)$  の元  $\chi$  に対し  $\tau$ ,

$$(u_\chi \xi)(g) = \overline{\chi(g)} \xi(g), \quad g \in G, \quad \xi \in \ell^2(l_g, G)$$

とおく

$$(16) \quad u_\chi a u_\chi^* = a, \quad a \in \pi_\alpha(A)$$

$$(17) \quad u_\chi f_g u_\chi^* = \overline{\chi(g)} f_g, \quad g \in G$$

を充たすから  $\delta_x \equiv \text{Ad } u_x|_{\mathcal{M}}$  とすると,  $\delta_x \in \text{Aut}(\mathcal{M}, \mathcal{A})$  となる.

定理 6  $(**)$  のもとで, 群  $K$  は  $\text{Int}(\mathcal{A})$  と  $\chi(G)$  の direct product と同型である.

(証明)  $K$  の元  $\beta$  に対して (15) を充たす  $u \in \mathcal{U}(\pi_x(\mathcal{A}))$  と  $\chi \in \chi(G)$  と取る. この  $\chi$  に対して  $\delta_\chi$  と考えたと.

$$\beta \cdot \delta_\chi(a) = \beta(a) = \text{Ad } u(a) \quad a \in \pi_x(\mathcal{A})$$

$$\beta \cdot \delta_\chi(f_g) = \overline{\chi(g)} \beta(f_g) = \text{Ad } u(f_g) \quad g \in G$$

が成立つ.  $\mathcal{M}$  は  $\pi_x(\mathcal{A})$  と  $f_g$  によって生成されているから.

$\beta = \text{Ad } u \cdot \delta_\chi^{-1}$  と分解できる.  $\text{Int}(\mathcal{A})$  と  $\chi(G)$  の direct product

から  $K$  への写像  $\sigma$  を  $\sigma(\text{Ad } u, \chi) = \text{Ad } u \cdot \delta_\chi$  と定義すると.

この  $\sigma$  は同型写像になる. 実際, もし  $\text{Ad } u \cdot \delta_\chi = \text{Ad } w \cdot \delta_{\chi'}$

( $u, w \in \mathcal{U}(\pi_x(\mathcal{A}))$ ,  $\chi, \chi' \in \chi(G)$ ) が成立つならば,

$\text{Ad } w^* u = \delta_{\chi'} \chi^{-1}$  が成立つ. 従って,  $\text{Ad } w^* u|_{\pi_x(\mathcal{A})}$  は identity

automorphism となり,  $w$  と  $u$  はスカラーしか異ならないから

$\text{Ad } u|_{\mathcal{M}} = \text{Ad } w|_{\mathcal{M}}$  となる. 故に  $\delta_\chi = \delta_{\chi'}$  となり (17) より

$\chi = \chi'$  を得る.

系 7  $(**)$  のもとで,

$$K_0 = \{ \beta \in \text{Aut}(\mathcal{M}, \mathcal{A}) ; \beta|_{\pi_x(\mathcal{A})} \text{ は identity automorphism} \}$$

とおくと,  $K_0$  は  $\chi(G)$  と同型である.

群  $G$  に対し交換子群  $[G, G]$  ( $\{ghg^{-1}h^{-1}; g, h \in G\}$  の生成する群) が  $G$  と一致するとき,  $G$  は完全群であるという.

系 8  $(**)$  のもとで, 次の (18), (19), (20) は同値である.

$$(18) \quad K = \text{Int}(A)$$

$$(19) \quad K_0 = \{1\}$$

$$(20) \quad G \text{ は完全群である.}$$

(証明) 定理 6 より (18), (19) 及び  $\chi(G) = \{1\}$  は同値である.  $\mathbb{T}$  を複素平面の単位円周とすると,  $\chi(G)$  は  $G$  から  $\mathbb{T}$  への homomorphism 全体をなす群  $\text{Hom}(G, \mathbb{T})$  である.  $\mathbb{T}$  は可換群だから,  $[G, G]$  は  $\text{Hom}(G, \mathbb{T})$  の各元の kernel に含まれる. 従って,  $\chi(G)$  と  $\text{Hom}(G/[G, G], \mathbb{T})$  は同型な群である. 故に,  $\text{Hom}(G/[G, G], \mathbb{T}) = \{1\}$  と  $\chi(G) = \{1\}$  は同値で, それは,  $G/[G, G]$  が trivial なる事と同値である //

(註)  $(*)$  のもとで,  $\alpha_g \in \text{Out}(A)$  ( $g \neq 1$ ) なる事と,  $\pi_2(A)' \cap M$  がスカラー全体と同型である事とは同値である.  $K$  に関する結果は,  $G$  が locally compact group のとき,  $\alpha$  が  $\pi_2(A)' \cap M$  がスカラー全体となるような continuous action であれば, そのうち成立する. 又最近,  $A$  を von Neumann algebra,  $\alpha$  を  $G$  から  $\text{Aut}(A)$  への  $\alpha_g$  が freely acting on  $A$  ( $g \neq 1$ ) となるような写像

のとき、上の群  $K$  に対する定理もは拡張されることになって  
 来た ([17])。

#### References

- [1] H. Behncke, Automorphisms of crossed product, Tohoku Math. J., 21(1969), 580-600.
- [2] H. Choda and M. Choda, On extensions of automorphisms of abelian von Neumann algebras, Proc. Japan Acad., 43(1967) 295-299.
- [3] H. Choda, On freely acting automorphisms of operator algebras, Kodai Math. Sem. report, 26(1974), 1-21.
- [4] M. Choda, Some relations of  $II_1$ -factors on free groups, to appear in Math. Japonicae.
- [5] \_\_\_\_\_, A characterization of crossed products of factors by discrete outer automorphism groups, Preprint.
- [6] \_\_\_\_\_, Extensions of the inner automorphism group of a factor. preprint.
- [7] J. Feldman and C.C. Moore, Ergodic equivalence relations, cohomology and von Neumann algebras, II, Preprint.
- [8] E. Hewitt and K.A. Ross, Abstract harmonic analysis, I. Springer-Verlag.
- [9] Y. Haga and Z. Takeda, Correspondence between subgroups and subalgebras in a cross product von Neumann algebra, Tohoku Math. J., 19(1967), 315-323.
- [10] R.R. Kallman, A generalization of free action, Duke Math. J., 36(1969), 781-789.
- [11] M. Nakamura and Z. Takeda, On inner automorphisms of

- certain finite factors, Proc. Japan Acad., 37(1961), 31-32.
- [12] \_\_\_\_\_, On extensions of finite factors, I, Proc. Japan Acad., 34(1959), 149-154.
- [13] I.M. Singer, Automorphisms of finite factors, Amer. J. Math., 17(1955), 117-183.
- [14] C. E. Sutherland, Cohomology and extensions of von Neumann algebras, I, II, Preprints
- [15] M. Takesaki, Duality for crossed products and the structure of von Neumann algebras of type III, Acta Math., 131(1974), 249-310.
- [16] G. Zeller-Meier, Produits croises d'une C\*-algebra par un groupe d'automorphismes, J. Math. pures et Appl., 47 (1968), 101-239.
- [17] Y. Watatani, An extension of the inner automorphism group of a von Neumann algebra, 準備中.